

令和5年度 学校教育自己診断の結果について（％は肯定率）

【生徒】

<評価の高い項目>

- 学校は1人1台端末を効果的に活用している。93.6%
- 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。91.9%
- 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。全学年 89.8%
- 学年別の全項目の肯定率 1年 88.7% 2年 82.1% 3年 85.1%
- 学校生活全般の満足度 全学年 88.0%

<評価の低い項目>

- 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。
1年 77.9%
- 農芸高校の生徒であることに誇りを持っている。2年 77.7%（1年 90.8%）
2年生の肯定率が低い。
- 授業や農業クラブ、部活動などで、他の学校園等との交流や地域の人々とかかわる機会がある。
78.0%
- 農芸高校では、生徒会活動が盛んである。78.9%
- 教室・特別教室・運動場・農場などは、授業や生活がしやすいよう整備されている。80.0%

<総評>

2年生の全体の肯定率が他学年の評価と比べ低い傾向にあるが、生徒は学校生活における満足度は88%と高く、LGHの指定を受けていることもあり、1人1台端末の活用についても非常に高い結果となっている。授業アンケート結果も昨年と比べ大きく評価が上昇していることから、ICTの活用で授業改善が進んだと考えられる。教育相談についての評価が比較的低く、次年度に向けて教育相談体制の整備が必要である。対外的な活動を多く実施しているが、全体の取組みとなっていないため、学校全体で取り組む農芸祭などで地域交流の機会を設ける必要がある。また、生徒会（クラブ活動）の充実が必要であるが、放課後の実習があるため、生徒会クラブの勧誘などを積極的に行う必要がある。

【保護者】

<評価の高い項目>

- 生徒の学習の評価は、適切・公平に行われている。95.3%
- 学校行事は、みんなが積極的に参加できるよう工夫されている。96.1%
- 自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしている。93.6%
- けがや体調が悪くなった時など学校は適切に処置をしてくれる。92.7%
- 子どもに生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。92.7%

<評価の低い項目>

- ・農芸高校は、放課後等のクラブ活動が充実している。61.8%
- ・学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行なっている。77.7%
- ・子どもは、授業がわかりやすく、楽しいと言っている。76.8%
- ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。79.8%

<総評>

保護者全般の満足度は高く、学習評価、学校生活、教育方針に理解を示していると感じられる。働き方改革のため電話の応答について時間外は対応しないようにした事により、意思疎通の部分で低い評価となっているが、保護者サイトの活用促進と理解を深めていく必要がある。

【教員】

<評価の高い項目>

- ・農芸高校の教員は、生徒の学習意欲や学力が向上するよう、教材の精選・工夫を行っている。100%
- ・コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。97.9%
- ・農芸高校の教員は、参加体験型の学習やグループ学習、思考力重視の問題解決型学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を図っている。97.2%
- ・農芸高校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いによくこたえている。95.8%
- ・農芸高校の教員は、教員に求められる府民や社会からの要請に応え、その職責をよく果たしている。95.8%
- ・農芸高校の教員は、生徒の悩みや相談に親身になって応じている。95.8%

<評価の低い項目>

- ・研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。58.3%
- ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。58.3%
- ・各科や各分掌、各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。62.5%
- ・教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。64.6%
- ・各教科の備品や教材教具は十分に活用されている。66.8%

<総評>

教員は、授業改善に熱心に取り組んでおり、授業アンケートの結果からも ICT の活用・グループ学習を取り入れた授業などが多く行われていることから評価が高いと思われる。教育相談について、それぞれで相談に乗っているが、生徒の評価は比較的低い結果からも第3者的なカウンセリング体制の構築も必要であると考えられる。研修成果の報告の実施、施設設備面の改善の必要がある。また、経験の少ない教員の増加により分掌業務など組織が有機的に機能できるように体制の見直しや教員1人ひとりのスキルアップなどが必要不可欠であると考えられる。